

北海道 びらとりトマト「ニシパの恋人」は全国においしさと健康を届けています

～室蘭開発建設部～
平成24年4月25日

「ニシパの恋人」は、出荷量全道一を誇っている平取町産のトマト。その特長は肉質がしっかりし、甘みに富み、日持ちすること。出荷先の約8割が関東・関西方面で、日高自動車道や苫小牧港などを經由して、新鮮な状態で全国の食卓に届けられています。

食卓で愛される「ニシパの恋人」

◆ニシパとはアイヌ語で「長老」「旦那」「紳士」のこと。長老が健康な体を保つためトマトを毎日食べ、恋人のように愛したことから名付けられました。



写真提供：JA平取町

◆トマト栽培が始まった40年前の作付面積は、わずか0.8haでしたが、H23年には栽培農家164戸、作付け面積119haに広がっています。



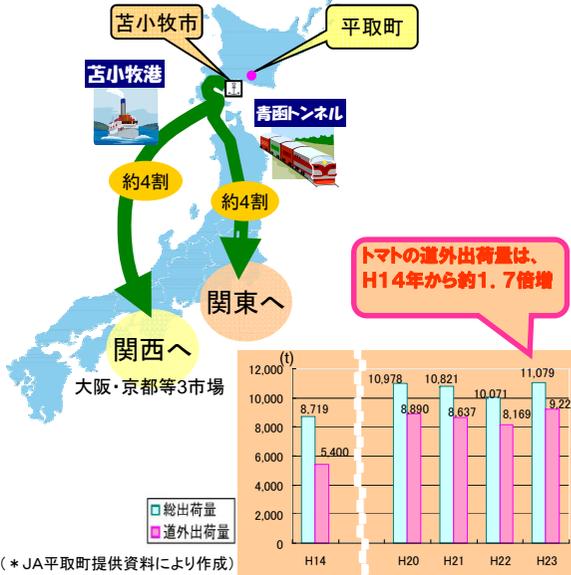
H23年度は、
生産量
約12,000t
販売金額
41億円突破！

◆トマトは農作物販売高においても、約8割を占める町の重要な基幹産業となっています。



新鮮なまま全国に配送

◆振動などで傷つきやすいトマトは、定速走行が可能な日高自動車道を通り、貨物船やJRなどにより全国に配送されます。



トマト作りを支える基盤整備

◆排水施設や河川の整備は、農作物の育成に寄与しています。



直轄明渠排水事業(サルバ地区)が行われ、地域の基幹排水を整備。



沙流川の整備により、農地の氾濫被害を抑制。

◆ 楠木初男 前平取町農業協同組合長インタビュー ◆

平取産トマトが、平成23年度の生産量・販売高ともに過去最高を記録。そのトマト生産の先駆者的役割を務めた楠木前組合長に、トマト作りについてお話を伺いました。



～楠木初男(くすのき はつお)氏～
大正13年3月25日生(88歳)。昭和28年平取町農協理事に就任。昭和47年に農協組合長に就任し、平成18年まで52年間、農協に従事。現平取ダム建設促進期成会会長。

Q トマト栽培を行うこととなった経緯は？

・昭和44年頃、国の減反政策が始まった。食生活が洋風化していた時代で、野菜の需要も変化していくと考え、転作奨励金でトマト栽培を始めた。リサーチの結果、トマトの大玉が一番お金になった。

Q なぜ本州の大消費地に売り込もうと思ったのですか？

・札幌だけだとマーケットが小さく、道内では価格が維持できない。東京だと東北と競合し物流コストで不利なので、ターゲットを大阪・京都にした。産地間協力で夏は平取、冬は九州から安定供給をしている。

Q トマト栽培で工夫した点をお聞かせください。

・育苗や選果の時間を省き、農作業に時間を充てたいと考え、育苗センターと選果場をつくった。これにより栽培面積が増え、安定的出荷が可能になり、市場の信用も得ることができた。また、補助金の対象となるモデル事業にも取り組んだ。

Q 成功の秘訣をお聞かせください。

・成功の秘訣は、具体的な目標の下、その達成のため何をすべきを考え実行すること。そして行政、生産者、普及センターが三者一体で取り組み、大量、安定的な栽培を行ったこと。大きな目標を示して仲間に希望を持たせることが大事。

Q 最後にひと言お願いします。

・52年間、農協理事、組合長をやらせていただいた。これも戦争で命拾いをさせてもらった恩返しだと思っている。